

## 目標達成計画票(事業所記入)

作成日: 令和 7年 12月 19日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	<p>○思いや意向の把握</p> <p>認知症の進行により、言葉で自身の思いを伝えることが難しい利用者が増えている。日々の関わりの中で、表情や仕草から意向を推察してはいるが、スタッフ間で解釈が分かれることがあり、統一したアプローチに至っていない。</p>	<p>非言語コミュニケーション(表情、視線、行動など)の観察記録を充実させ、カンファレンスを通じて本人の『真のニーズ』を多角的に分析・共有する体制を確立する</p>	<p>ご家族に協力いただき、入居者の「好きだったこと」「誇りに思っていた仕事」「習慣」を改めて聞き取り、「私の履歴書(ライフストーリー)」としてまとめ、全スタッフで閲覧・共有する。</p>	3ヶ月
2	21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>個々の生活リズムが優先され、共有スペースに集まっても会話が少なく、『同じ屋根の下にいる他者』という関係性に留まっている。</p>	<p>「互助」と「共生」の実現:「利用者同士が互いの存在を認め合い、日常のなかで自然な声掛けや助け合い(互助関係)が生まれるような環境を構築する。」</p>	<p>共通項の見つけ出し、スタッフが介在し、出身地、趣味、かつての職業など、利用者同士の共通の話題をさりげなく提供し、会話のきっかけを作る。</p>	6ヶ月
3	38	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>日課の一律化: 食事、入浴、起床・就寝の時間など、施設側のスケジュールに入居者が合わせる形になっており、長年の生活習慣が断絶してしまっている</p> <p>「できること」の機会損失:「安全確保や時短を優先し、ご本人が本来できる家事や身の回りのこと(お茶を淹れる、服を選ぶ等)をスタッフが代行しすぎてしまい、役割や意欲を削いでいる。」</p>	<p>生活の主導権の回復:「入居者が自分の意思で一日の過ごし方を選択でき、これまでの生活の延長線上にあると感じられる暮らしを実現する。」</p> <p>役割と居場所の創出: 「一人ひとりの強みや習慣に基づいた『役割』を持ち、ホームの一員として必要とされている実感を持って過ごしていただく。」</p>	<p>24時間の生活リズムの再現:「朝はゆっくり寝ていたい」「夜寝る前に温かいものを飲みたい」といった個別のルーティンを把握し、可能な限り既存のタイムスケジュールを柔軟に変更して対応する。</p> <p>「得意」を活かした家事参加: 元料理自慢の方には味付けの相談をする、整理整頓が得意な方にはタオルの仕分けを頼むなど、「支援される側」ではなく「貢献する側」になる機会を毎日作る。</p>	6ヶ月
4					ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加してください。